

---

## 編集後記

---

何故か透析医会雑誌の表紙が変わる前から広報委員をおおせつかり、しかも、まったく役を果たして来ず、校正さえ期限が守れなくて常に反省の、名ばかりの委員です。みなさん、本当にごめんなさい。出来上がった会誌を手にする時、とてもうれしく、素敵に出来上がった！と、さも自分が大いにかかわったように厚かましくも威張っています。透析医会としての役割を外さず、ホットな情報をタイムリーに、医療経済、医療安全対策、実態調査、臨床研究等々、読み応えのあるわが透析医会雑誌は、ますます格調高く進化し続けるものと確信しています。

猛威をふるう新型インフルエンザに、やっと10月19日からワクチンの配給(?)がはじまり、特別診察室に隔離透析室を用意して、問われて提出した医療従事者用がなんとワクチン1回打ちで8人分のみでした。11月2日に届けられた透析患者用ワクチン(余裕あり)は、ゆめゆめ流用してはならぬとのお達しに抗議の電話をしたところ、“来年輸入物が入れば供給できるかもしれない”との薬務課の回答。なに？ それ！ の連続の新型インフルエンザですが、日常会話はインフルエンザオンリーです。患者さんも職員もにわかコメンテーターになって、優先順位は子供でしょう！ 無料じゃないの？ 痛くないね！ 大人はかからないみたい！ タミフル1カプセル！ 鳥でなくて豚よ！ 新型、季節性いっぺんに打てるの？ 去年打たなかった人は今年は打てないよ(季節型のワクチンも去年の実績の8割しか入ってこない) etc, かましいい。

今回の、くま腎クリニック、隈博政先生の「新型インフルエンザ対策」はまさに時を得た論文といえましょう。必読です。渡航歴のない新型インフルエンザ第1号を出した神戸では、5月の神戸まつりも中止して、保育所、デイケアもお休みで、繁華街はゴーストタウンと化し、震災以来のマスク集団に異様さを感じ、日常的には勤務者の確保に追われるというパニック状態でした。感染はやむをえないとして、重症化させない対応、他人に感染させない個人個人の認識、集団感染を防ぎ、施設がダウンしないシミュレーションなど、強毒型のインフルエンザ流行のリハーサルになったかと思っています。とにもかくにも早くやれやれの状態に持ち込みたいものです。

広報委員 坂井 瑠実